

令和5年8月 定例教育委員会

日 時 令和5年8月18日（金）9時30分～

場 所 市役所11階 会議室1

出席者

（教育委員）

陣内教育長 松野教育長職務代理者 萩原委員 古賀委員 中村委員

（事務局）

大藤教育総務部長 溝口総務課長 中尾図書館長 栗林学校教育部長 鳩山学校教育
部次長兼学校教育課長 富野学校教育部次長 峰松総務課長補佐兼庶務係長

欠席者 なし

傍聴者 なし

内 容

(1) 教育長報告

(2) 令和5年6月分 議事録確認

(3) 議 題

① 令和5年度（令和4年度活動）自己点検及び評価（外部評価）の件（教委総務課）

② 令和5年度補正予算（6号）の件

(4) 協議事項

なし

(5) 報告事項

① ②を秘密会とする件

② 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について（学校教育課）

③ 令和5年度 佐世保市「心の状況調査」結果及び考察について（学校教育課）

(6) その他

① 次回開催予定について

◆教育長報告

○ 8月 2日、3日 九州地区市町村教育委員会研修大会

○ 8月 7日 文教厚生委員会協議会

○ 8月 8日 全員協議会

8日 第4回教科書採択審議委員会

○ 8月10日 前期教育委員会

○ 8月17日 校長定例研修会

(1) 教育長報告

【陣内教育長】

おはようございます。

まず教育長報告の方ですが、まずもって8月2日3日の九州教育委員会連絡協議会の研究大会、研修会、それから総会のご参加ありがとうございました。

それから議会の方に、まず8月7日に文教厚生委員会、それから8日は全員協議会の方で、学校再編案の第1期の姿が見えてきましたので、その報告をしたところでございます。特に否定するような意見はございませんでした。推進室の皆さんが、年間50回の説明会を丁寧に行っていただき、地元の方からも一定の納得をされている、その空気が議員の皆さんにも伝わっている証左ではないかと考えております。

それから8月10日の、教科書の採択業務について皆さんお疲れ様でした。教育委員さんたちがしっかりと勉強して考えてきてくださっていることが大変うれしかったです。すべての教科に闊達な意見が出て、議論を交わしていただきながら佐世保の子どもたちにとって良いものという熱意をもって真剣に選んでいただいたことに感謝申し上げます。教育長報告につきましては以上です。

(2) 令和5年6月分 議事録確認

【陣内教育長】

6月定例教育委員会の議事録の確認でございますが、事前にご確認いただいたと思いますがいかがだったでしょうか。

【全教育委員】

異議ありません。

【陣内教育長】

異議なしということでよろしくお願いたします。それでは議題に入っていきたいと思っております。本日はまず令和5年度（令和4年度活動）自己点検及び評価（外部評価）の件について総務課から説明をお願いします。

(3) 令和5年度（令和4年度活動）自己点検及び評価（外部評価）の件

【溝口総務課長】

はい。それでは事前にお配りしておりますが、議題①令和5年度（令和4年度活動）自己点検及び評価（外部評価）の件について、そちらをお開きください。内部評価につきましては、6月の前期教育委員会、そして、6月の定例教育委員会の中で確認をいただいて作成をしたところでございます。そのあと、外部評価委員をお願いいたしました、百津先生と長崎国際大学の田中教授に外部評価をしていただきました。それぞれ、回答がございましたので、こちらの方でまとめさせていただいたところですので。外部評価委員の評価等について簡単にご説明をしたいと思います。

資料は3ページ目です。確認いただいた内部評価の内容と、両委員に評価していただいた外部評価の両方を併記する形で、記載をしております。表記に関しましては、百津先生については便宜上、Aと表示をしております。田中教授については、Bと表示しておりますので、その前提でご覧いただければと思います。

資料の4ページをお願いいたします。百津先生から、新型コロナウイルス感染症への対応についてです。4ページの下段にあります。令和2年3月に文部科学省が示した「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」は、令和4年4月まで8回の改訂が行われたが、日々変わっていく現状を的確に把握し、その通知を所

管の学校へ徹底し、学校の判断に助言するなど、事務局、教育機関と連携し、大きな混乱もなかったことを高く評価していただいております。

5ページになります。田中教授からも、文部科学省が示す衛生管理マニュアルも改訂される中、様々な業務を円滑に行うため、学校と連携し、平時にはない対応を続けておられる点に対して、感謝と敬意を表したいということ、さらに、「学校感染症対策等支援経費」の措置に関しては、学校の規模ごとに予算を配当し、全ての学校での活用が図られ、感染症対策及び学びの保障の実現に寄与したということで、有効に活用できたと評価をしていただいております。

次に学校の再編、通学区域の見直しについてです。百津先生からは、学校の再編、通学区域の見直しは、市民、特にその地域の住民の理解が重要であり、今後の計画を示す「再編計画」を作成し、パブリックコメント等を求め、地域での説明会を実施し、広範な意見の集約に努めているなど丁寧な手順を踏んで進めていることを高く評価していただくとともに、学校の統合は、子どもの教育条件をよりよいものにするということを前提に行われるべきであり、統合後の学校における教育環境の整備が十分に図られることを望むというご意見をいただいております。

田中教授からは、今後の個別具体の計画策定にあたっては、学校の再編、通学区の見直しがその地域に大きな影響を与える可能性を鑑み、さらに、丁寧な合意形成を図り、事業を推進していただきたいというご意見をいただいております。

スマート・スクール・SASEBO構想の実践についてです。資料は7ページです。百津先生からは、現在提供している授業が、ICTのベストミックスとして活用できているかについては、まだ課題が残っている。特にICT活用に経験が浅い教員に対して、授業の中での有効な利活用など、実践的な研修会の実施に期待したいというご意見をいただいております。

田中教授からは、ICT支援員を県内の他市町よりも手厚く配置している点、すべての教職員による情報共有インターネットサイト「スマート・スクール・SASEBO羅針盤」の活用を通して、指定校等での先進的及び日常的な取り組みを全市的に共有し、ICTを活用した教育の浸透を図っている点、そして、令和5年2月の調査で、毎日ICTを活用し授業を行う教職員の割合が93.4%と活用促進が活性化している点について評価をいただくとともに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一気に加速したICTの活用であるが、生徒の安全面、情報セキュリティへの対応等を徹底しながら、教育現場でのICT活用の様々な可能性にチャレンジしてみて、情報セキュリティ対策を適切に行った上で、ぜひ推進していただきたいというご意見をいただいております。

次に、教職員の働き方改革についてです。8ページをお願いします。百津先生からは、働き方改革に向けて、令和2年度から関連する規則の制定や、アクションプランを策定するなど、積極的な姿勢を評価いただいておりますが、「超過勤務80時間超ゼロ、45時間超を小学校5%、中学校10%を下回る」という目標は達成できていないことから、教員が本来求められている業務に集中できるように、業務改善やデジタル化を推進すること、保護者や地域の理解を求めていくこと、在校管理システムが形骸化しないように検証していくこと、部活動や学校行事の実施方法等の工夫、地域の協力や専門スタッフの採用など、スクール・サポート・スタッフをはじめとするサポート体制の充実を図ることが必要だろうというご意見をいただいております。

田中教授からは、令和4年度は、「超過勤務80時間超ゼロ、45時間超を小学校5%、中学校10%を下回る」ことが目標となっていた。佐世保市立の教職員全体として、超勤時間は、確実に減ってはいるものの、80時間超については目標を達成することができていない。しかし、この件は、数値目標を達成できていないこと自体が問題ではなく、新型コロナウイルス感染症の対応が続いていることもあり、教育職員の業務量は非常に多く、多岐にわたり、通常の勤務時間内で終わることが非常に難しいことは非常に難しい。このような状況を大学生も敏感に感じ取り、近年では、教員採用試験の倍率も下がってきている。教育職員の質を担保するためにも、この現状はなんとしても改善していかなければならないので、超過勤務時間を減らしたことによって、教育の質が下がることがな

いよう業務改善が適切に行われていくことをお願いしたいというご意見をいただいております。

次に学力の向上についてです。10ページをお願いします。百津先生からは、学力は人格の一部であり、学力形成は即ち人格形成である。特に義務教育は、学力の保障に徹することが必要であり、学力は子どもにとってライフライン（命綱）であることから、令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果において、目標に達することができなかったことは極めて重要な課題である。その対策として、これまで専任指導員の配置、学力向上授業モデルの構築等を目的とした「拠点校方式」を導入するなど、積極的な姿勢は評価するが、学力向上の成果や研究内容の共有に留まらず、学力向上の取組がどのようにして作り上げたのか、直面した問題に、学校がどのように対応していったのかなどを含めて「プロセス」の共有を行うことが肝要であると考えて、教育委員会事務局が「学力向上本部」を立ち上げ学力向上に積極的に関与していくシステムにおいて、今後は学力向上へ向けた「プロセス」の把握やその共有を深める中核になることに期待したいというご意見をいただいております。

田中教授からは、令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果に一喜一憂するのではなく、この数値になった要因を分析し、改善を加えていくことこそが重要だと思う。算数・数学についての授業改善に課題が残ったということであれば、この領域こそICTを活用した学びの得意分野であると認識しているので、1人1台端末の利点を生かして、学力向上の取組を推進していただきたいというご意見をいただいております。

次に、社会教育の分野についてですが、まず地域学校協働活動の推進についてです。百津先生からは地域と学校がパートナーとなり、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動である地域学校協働本部を新たに3地区に設置するとともに、学校と地域の連携・調整や活動のコーディネートの役割を果たす地域学校協働推進員を配置したことを高く評価していただくとともに、教育は、学校を中核に家庭、地域の三者が協働して進めていくものであるため、今後は保護者や地域住民が学校や教育委員会に意向を伝えるとともに、学校からも保護者や地域住民に意向を伝えるなど、保護者・地域住民と学校・教育委員会が相互に交流して教育活動を進めていくことが求められているので、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）及び地域学校協働本部を活用することにより、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら、子どもたちの豊かな成長させていくことができるように、学校教育課と社会教育課が密に連携していくことを期待しているというご意見をいただいております。

田中教授からは、同様に今後のさらなる活動に期待したいというご意見をいただいております。

英語シャワーについてです。百津先生からの評価では、コロナ禍の中でも機能を縮小するなどの運営工夫を行い実施する積極的な姿勢を高く評価していただくとともに、「佐世保市English出前プログラム」、「SASEBOグローバルキッズ・チャレンジ」のさらなる発展と、昨年度以上に英語でのコミュニケーションに慣れ親しむ機会が充実するよう期待しているというご意見をいただいております。

田中教授からは、グローバル社会で活躍できる次世代のリーダーの育成を目的としたプログラムなど、意欲的な子供たちに学習と英語を使う実践の場を提供できたことに高く評価していただくとともに、英語力の向上には、日々の学校教育の果たす役割が非常に大きいので、それぞれの教育現場での英語教育の質の向上に対する地道な取り組みにも期待したいというご意見をいただいております。

資料16ページをお願いします。教育委員活動の評価についてです。百津先生から総合教育会議においては、「今後の学校再編推進に向けた方向性」、「運動部活の地域移行について」、「『誰も取り残さない社会を目指して』～子どもや家庭への支援について～」など、市長、教育長、教育委員での意見交換は、時宜を得たテーマであり評価できるという意見とともに、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行う社会教育委員との合同会議については、教育委員の広い視野と見識の確保のためにも、今後も積極的な開催を期待するとの意見をいただいております。田中教授からも同様の評価をいただき

ました。

次に17ページ下段からは教育委員会の活動状況についてです。百津先生からは前期教育委員会において、様々なテーマについて研修を行うなど教育委員の積極的な姿勢を高く評価していただくとともに、議会に出席する各課かい長による各課の事業及び施設の状況等についての説明は、委員と事務局の相互理解ができるものであり、今後も継続することを希望するというご意見をいただいております。田中教授からは、教育に関連する外部団体との意見交換について、令和4年度は令和3年度に比べて大幅に意見交換会の回数が増えている。外部の意見を聞くということは非常に重要なことがあるので、今後とも積極的に意見交換を行い、佐世保市の教育の質を上げていけるように努力を続けていただきたいというご意見をいただいております。

22ページをお願いいたします。教育委員会が管理・執行する事務についてです。百津先生からは、議事録を見ると、予算編成に教育委員の意見を反映するのにふさわしい時期に、各委員の考えが出され活発な議論がなされている。「教育委員会が管理・執行する事務」14項目の事務件数としては、令和3年度に比べ35件減少している。これは事務の効率化等に向けた事務局の努力によるものだという評価をいただいております。田中教授からは、教育委員会が管理・執行する事務は多岐にわたるが、それぞれ適切に遂行されていると思う。今後とも適切な管理・執行に努めていただきたいというご意見をいただいております。

最後になりますが、27ページをお願いいたします。ここは「おわりに」ということになっていますが、百津先生からは、外部評価全体を通して評価をいただいております。令和4年度も前年度と同様に、コロナ禍に翻弄された1年であったため、感染防止対策を図りながら、思うように教育活動ができなかった部分が多かったものと思われるが、そのような状況においても、コロナ対策のための教科指導の充実、ICTを活用した新たな教育方法の導入、研修機会の確保、健康安全教育の徹底、感染者の人権に配慮した関係の確保など、多領域にまたがって精力的に進めて来られたことを高く評価していただくとともに、教育は全ての基本である。複雑化多様化する社会の中で、佐世保市で育て良かった。佐世保市で子育てできて良かった。佐世保市で教員ができて良かった。佐世保市でいろいろなことが学べて良かった。このように市民が心から思えるように、今後さらに、あらゆる年代、立場の方と意見交換を通じて課題解決に取り組んでいただくことを期待するというご意見をいただいております。

以上、各外部委員の評価を紹介させていただきました。

本日、こちらの方の決定をいただきますと、この後決裁を取りまして令和5年9月の市議会に決算書と一緒に提出をすることになります。その後、議会のご意見もいただきながら、10月末ごろにホームページに掲載して、市民の方にもご覧いただくようなスケジュールで進めていきたいと思っております。説明は以上でございます。

【陣内教育長】

はい。ありがとうございました。確認をさせていただきたいと思っております。この資料の1ページをお開きください。まず、1ページの(2)佐世保市の自己点検及び評価についてというところで確認したいのですが、改正地教行法第26条に基づいて、教育委員会が事務の管理及び執行状況について、まず点検・評価、内部評価を行い、これを実際にしっかりとやって、その結果を議会に提出し、また広く市民の皆さんに公表をするものであり、その時に、外部的な評価も、学識経験者の知見を活用することが求められているということで、今回の自己点検及び評価についてという議案は、今回見ていただいているこのペーパーを成案として、今後、議会や一般市民の方々に提出する成案としてよろしいでしょうかというものです。

その中身については、すべての項目が3段階の構成がなされておりました、ご覧の通り、最初に内部評価、続いて外部評価委員Aさんの外部評価、続いて外部評価委員Bさんの外部評価となっております。

内部評価につきましてはこれまで過去の定例教育委員会において議案として見ていた

だきまして、1件議決を受けておりますところでございますので、これについてはもう皆さんもご承諾の上だと思っております。

外部評価の方について、評価が適切でないとかいうことは、意味がなしませんので、外部からの評価につきましては、しっかりと受けとめてやっていくべきであろうと思っております。

今日はこの中身について深めて、PDCAのサイクルの中で、こうやってチェックをしてそれが次にどうアクションとして活かされていくかっていうことでございますので、そういった点を考えながら、議論ができればと考えております。お尋ねやご意見等ございませんか。
ありがとうございます。

【萩原委員】

19ページの学校訪問についてというところで、参加人数は令和3年度と比較し倍増となったと書いてあります。文章を読むと、3年度がすごく少なかったのかなっていう気持ちになるのですが、これは学校の訪問数は同じで、人間が倍増したのか、訪問が増えたのか、その辺りがわかるようにしていただきたいと思いました。

【鳩山学校教育課長】

学校教育課長です。ご指摘のとおり、精査を行わせていただきます。コロナの影響等もあり学校訪問については、当時少なかった可能性がありますので倍増という表現について精査を行います。

【萩原委員】

学校訪問についてもう一つ。過去の評価を見ていて思うのですが、全部評価が同じことを書いてあります。毎年一緒なので、その年の感想みたいなのも、評価として付け加えたほうがいいのではないかと思います。

【鳩山学校教育課長】

学校教育課長です。そのように努めて参ります。

【中村教育委員】

感想ということで、10ページに百津先生からの最初のところの文章で、学力は人格の一部であり、学力形成は即ち人格形成である。特に義務教育は、学力の保障に徹することが必要であり、学力は子供たちにとってライフライン（命綱）であるとありました。これはすばらしい言葉だと思ひまして、ただこれは大人であればわかると思いますが、子どもがこれをわかるようなメッセージを伝えるようにしたほうがいいと思います。ものすごく大事なことがここに書いてあると思うので、ぜひこれを活かしていただけたらというふうに感じました。こういうことを子どもたちが理解できるようなメッセージを伝えて、ちゃんと子どもたちが自主的に取り組むようにということが大切だと思います。

【陣内教育長】

中村委員からのお話は、評価の体裁とかそういったものではなくて、これを受けて今後どうするかっていうところの提言かと思ひます。そういった提言も本当にありがたい、そういった提言をいただくための評価だと思っておりますのでそういったところもどんどんありましたらお聞かせください。

【松野教育委員】

評価されたお2人の方々から非常に鋭いというか、適切な評価をしていただいております。改めて全体的に勉強になるなと感じております。田中委員さんの部分について

は数字、目的を達成することができなくても、その数字が下回ったとしても一喜一憂することなく、その原因をしっかりと捉えて、究明して、その要因を探っていきながら、解決する手だてを見つけてくださいという、非常に具体的な今後の取り組みについての評価がなされておりまして、非常に勉強になったところです。

あと、百津委員さんの方につきましても、学校現場全体を見た形での確な指導がなされていて、すごいなと思いました。特に最後のエールのところが改めて身が引き締まる思いをしたところでありますけれども、先ほど中村委員さんも指摘がありましたけれども、今後の取り組みとしてそれをどう具現化していくかというところが、これからの私たちの課題になっていくのではないかと思っているところです。

【陣内教育長】

様々なご意見いただきましたが、今回提案をさせていただいている案をもって、今後、議会への報告それから市民の皆さんへの報告を成案としていくことについてご了承いただけますでしょうか。

【全教育委員】

はい。

【陣内教育長】

ありがとうございます。それから私の方から一つだけ事務局にお願いがあります。皆さんからもお話があったのですが、評価のための評価ではなくて、この評価をもって次に活かしていくものですので、評価自体は改善、自分たちがアクションをしてそのアクションがどうだったかっていうのを見るための評価ですのでそこはぜひ事務局のほうで徹底してください。

あと、今後のこの外部評価に基づく自分たちのアクションについては、ぜひ検討していただいて聞かせてください。自己評価を受けて、それぞれの担当課ではこのように改善をしようと思っておりますというところを聞かせていただきたいです。

それでは2つ目の議題、令和5年度補正予算（6号）の件について、説明をお願いいたします。

（4）令和5年度補正予算（6号）の件

【溝口総務課長】

総務課長です。資料は当日配付資料①1ページをお開きください。令和5年度補正予算第6号についてです。令和5年9月5日に開会予定の佐世保市9月市議会に上程するために、今回の定例教育委員会に提案するものでございます。

資料2ページをお願いします。今回9月議会に上程する補正予算の内容につきまして申し上げますと、歳入が2件、歳出が3件となっております。詳細につきましては、各課長から説明をいたします。

資料は3ページをお開きください。総務課は歳入のみとなります。今回匿名希望の市内事業者様から、奨学金制度充実のために寄附されました300万円につきまして、当初予算では、寄付収入を100万円しか計上しておりませんでしたので、差額の200万円を歳入予算として補正計上するものでございます。今回の300万円は、奨学金制度充実のために寄附をいただきましたので、一般奨学基金に積立をしまして、今後、奨学金として貸付予定としております。歳入科目については19款寄附金1項寄附金5目教育費寄附金となります。なお、当該寄附者様からはこれまでに合計で2200万円の寄附をいただいておりますが、毎回匿名希望ということで、公表や新聞等への掲載は控えてほしいという意向をお持ちです。今回もこれまでと同様に匿名希望ということでしたので寄附者の意向を尊重して匿名という形で説明させていただきました。総務課分は以上となります。

【鳩山学校教育課長】

学校教育課長です。引き続きまして、資料は4ページをご覧ください。教育行政一般管理事業に係る学校教育審議会についてご説明いたします。補正要求額は32万8千円を計上しております。

本事業の概要としまして、時代の変化に伴う様々な学校教育課題に対し、児童生徒の教育環境の充実、向上に向けた専門的な見識を、学校教育に反映させるため、教育委員会からの諮問に対し、それぞれの委員の専門性を生かした審議、答申を行っていただくための審議会を設置するものです。名称は佐世保市学校教育審議会としております。本審議会は、学校教育に関わる校則問題、不登校対策、中学校の部活動地域移行などの諸課題により適切により早く対応するため、今年度中の審議会開催を考えております。

本審議会で調査審議いただく事項としましては、学校教育課題に関すること。教育施策の推進に関すること。その他、教育委員会が必要と認める事項としております。

審議会の委員としましては、様々な学校教育課題に対する審議、調査に専門的な見地等が必要と考えますので、学識経験者、関係団体の代表、学校教育関係者、保護者や地域住民及び教育委員会が必要と認めるものです。16名以内をもって審議会を設置し、必要の都度、教育委員会が諮問事項に応じた委員を委嘱し、審議を行っていただくことを考えており、本審議委員の任期は、当該諮問にかかる期間としております。

このたび補正予算編成をお願いする理由としまして、時代の変化に伴い浮かび上がる学校教育に関わる諸課題のうち、包括外部監査でも多くの意見をいただきました校則問題について、年度内に委員会を立ち上げ、スピード感をもって調査審議していただくため、9月議会において補正予算の編成をお願いするものです。

続きまして、生徒指導充実事業、不登校特例校等設置準備事業に係る補正予算についてご説明いたします。資料は5ページをご覧ください。補正要求額は30万1千円、有識者への聞き取りの謝礼、先進校視察の旅費を計上しております。

資料1の概要に記載しておりますように、本市における不登校児童生徒は平成26年度から令和3年度におきまして、小学校においては5倍、中学校においては1.4倍と増加しております。このことは全国と同様の傾向であり、不登校児童生徒への支援、また、不登校対策は本市も含め、全国的に喫緊の課題となっております。

また、平成28年12月に施行されました「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保に関する法律」第10条において、地方公共団体の責務として、不登校児童生徒に対し、その実態に配慮して、特別に編成された教育課程に基づく教育を行う学校の整備及び当該教育を行う学校における教育の充実のために必要な措置を講ずるものとされております。

さらに、同法第14条におきましては、学齢期を経過した者についても、夜間その他特別な時間において授業を行う機会を確保する措置を講ずるものとされております。

このように、不登校児童生徒の個々に応じた教育の機会均等の確保と社会的自立に向けた、支援の充実が求められていることから、本市におきましても、通常の教育課程が形成された学校に行きづらい児童生徒のために、通常の学校及び授業時間数が少ないなど、柔軟に学ぶことができる特別の教育課程を編成した学校を開設すること。また、十分な学習機会を得ることなく、学齢期を終えた者について、義務教育の機会を提供する。これらにより、不登校児童生徒への教育の充実と、誰1人取り残されない学びの場を保障することを、本市の重点課題として研究を継続しております。

不登校特例校や夜間学校を開設することによる効果としましては、不登校によって学習の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクを抱えた児童生徒の支援が図られるとともに不登校児童生徒が学校に通うことができる環境を整えることで、当該保護者が子供の困り感に費やす時間と精神的な負担を軽減できることが挙げられます。

今般の取組に係る歳出補正予算としまして、30万1千円、国から本市への補助金としまして、資料2ページの上段に記載しておりますが、経費の3分の1となる10万円を歳入補正予算として計上しております。

このたび補正予算編成をお願いする理由としましては、本市における不登校児童生徒の出現率が、増加の一途をたどり、令和3年度本市における不登校者数も過去最多となったこと。また、令和5年6月議会でも不登校特例校の設置について指摘を受けており、その設置研究を早急に行う必要が生じたためであります。説明は以上です。

【中尾図書館長】

図書館長です。資料は6ページをお願いいたします。11款教育費5項社会教育費4目図書館費の補正予算についてです。計上額は101万2千円。補正理由は、移動図書館はまゆう号の接触事故により損傷した箇所の修繕料を増額するものです。

この事故につきましては、令和5年5月13日土曜日14時30分ごろ、「世知原地区コミュニティセンター図書室」に図書の配送を行った際に、出発前に乗降口上部にあるルーフを収納していなかったため、個人所有の車庫シャッター格納部分に接触したものです。

なおこの修繕料は全国市有物件災害共済会から全額補填される予定となっております。説明は以上です。

【陣内教育長】

はい。ありがとうございました。

2件の歳入それから3件の歳出予算を、今回の9月6日に補正予算を計上したいという状況です。お尋ね、ご意見等ございませんでしょうか。

【松野委員】

学校教育審議会についてですが、長崎市からの委員旅費というのが入っておりますが、委員についてはある程度目星がついた形での予算計上でしょうか。

【鳩山学校教育課長】

確定しているものではないのですが、長崎大学の教授にお願いをする形になるかと考えております。

【陣内教育長】

教育学部を持っているのが長崎大学になりますので、その想定の上でということになります。他はございませんでしょうか。

ないようですので、議題の2つ目、令和5年度補正予算（6号）の件については承認いただいたということで終わりたいと思います。

その後、次回開催予定日を確認し、終了となった。

----- 了 -----